

ウ 文学的文章の変遷

(7) 問題傾向の変遷

年度	出題作品 (*は小説以外)	配点	出題内容	備考
昭和41年度	「美しい村」堀辰雄	25	国語基礎・内容把握・文脈把握・主題把握	
昭和44年度	「ごんぎつね」新美南吉	20	国語基礎力の問題	愛知の作家
昭和45年度	「走れメロス」太宰治	20	国語基礎力の問題	
昭和46年度	「山の音」川端康成	26	脱落文補充・人物像把握・内容把握	この年から内容読解の問題が本格的に始まる。
昭和47年度	「蜜柑」芥川龍之介	30	語句の意味・脱落文補充・比喩・心情把握・文脈把握	53年度以外、配点が30点となる。
昭和49年度	*「つきあい」幸田文	30	語句の意味・脱落文補充・内容把握・主題把握	49年度～55年度まで、③点×10問となる。
昭和50年度	「バッタと鈴虫」川端康成	30	語句の意味・比喩・心情把握・内容把握	
昭和51年度	「暗夜行路」志賀直哉	30	文学史・心情把握・内容把握・表現の特色	
昭和52年度	「生のさなか」小川国夫	30	語句の意味・空欄補充・脱落文補充・心情把握	41・42年度以外この年まで、詩・俳句・短歌の出題もあった。
昭和53年度	「山椒大夫」森鷗外	40	国語基礎力の問題	
昭和54年度	「山椒大夫」森鷗外	30	主語・脱落文補充・心情把握・内容把握・表現の特色	
昭和55年度	*「京に着ける夕」夏目漱石	30	歴史的知識・語句の意味・慣用表現・比喩・段落分け・主旨把握	
昭和56年度	「夏の靴」川端康成	30	脱落文補充・比喩・人物像把握・心情把握・主題把握・表現の特色	この年から選択肢が5つになると同時に、設問に応じた点数配分となる。
昭和57年度	*「朝顔」志賀直哉	30	文学史・指示語・空欄補充・心情把握・内容把握・題名	
昭和58年度	「伊豆の踊子」川端康成	30	文学史・語句の意味・空欄補充・心情把握・表現の特色	
昭和59年度	*「千曲川のスケッチ」島崎藤村	30	文学史・語句の意味・比喩・空欄補充・内容把握	文学史に関する問題はこの年が最後となる。
昭和60年度	*「川の話」井上靖	30	語句の意味・指示語・空欄補充・内容把握・表現の特色	
昭和61年度	*「トマト畠で」尾崎一雄	30	語句の意味・指示語・空欄補充・人物像把握・心情把握・内容把握	
昭和62年度	*「幼年時代」堀辰雄	30	語句の意味・反対語・心情把握・内容把握・主旨把握・表現の特色	
昭和63年度	*「手品師と蕃山」薄田泣菫	30	語句の意味・比喩・空欄補充・心情把握・人物像把握・内容把握	この年まで近代の文豪の作品が中心であった。
平成元年度	*「青い瓦」渡辺淳一	30	四字熟語・指示語・文脈把握・空欄補充・内容把握	現代の作家や児童文学からの出題も多くなる。
平成2年度	「おとうと」幸田文	30	語句の意味・空欄補充・季節・心情把握・内容把握	
平成3年度	「二十四の瞳」壺井栄	30	脱落文補充・比喩・空欄補充・人物像把握・心情把握・内容把握	
平成4年度	「アラスカ物語」新田次郎	30	語句の意味・脱落文補充・空欄補充・心情把握・内容把握	
平成5年度	「風の中の子供」坪田譲治	30	脱落文補充・空欄補充・人物像把握・心情把握・内容把握・主題把握	語句・慣用句など知識問題は出題されなくなる。
平成6年度	「TUGUMI」吉本ばなな	30	脱落文補充・空欄補充・人物像把握・心情把握・内容把握	

平成7年度	「はじめての四年間」 L. I. ワイルダー	30	脱落文補充・人物像把握・心情把握・内容把握	
平成8年度	「五月の傾斜」高橋三千綱	30	脱落文補充・比喻・心情把握・内容把握	
平成9年度	「おじいさんのランプ」 新美南吉	30	指示語・比喻・空欄補充・人物像把握・心情把握・全体内容の把握	愛知の作家
平成10年度	「星の巣」ビートたけし	30	比喻・人物像把握・心情把握・内容把握	
平成11年度	「カモメに飛ぶことを教えた猫」 ルイス・セプルベダ	30	比喻・人物像把握・心情把握・主題把握	
平成12年度	「夏の庭」湯本香樹実	30	脱落文補充・心情把握・全体内容の把握	心情を把握する問題が3～4問出題されることが多くなる。
平成13年度	「塩狩峠」三浦綾子	30	心情把握・内容把握・表現の特色	
平成14年度	「エビスくん」重松清	30	人物像把握・心情把握・内容把握	
平成15年度	「天国までの百マイル」 浅田次郎	30	指示内容・心情把握・内容把握	
平成16年度	「リセット」北村薫	30	比喻・心情把握・内容把握	
平成17年度	「裸の王様」開高健	30	慣用表現・比喻・人物像把握・心情把握・内容把握	
平成18年度	「魔術」芥川龍之介	30	会話主体・空欄補充・心情把握・内容把握	
平成19年度	「生まれ出づる悩み」 有島武郎	25	空欄補充・心情把握・内容把握・主題把握	

※昭和40, 42, 43, 48年度は文学的文章からは出題されていない。

年度ごとの「国語学力調査結果分析より」（昭和40年度～平成6年度）

- ・「文章の展開・文脈の関係を丹念に把握したい」（昭和49年度）
- ・「前後の文脈からきちんと読み取っていくことができない」（昭和54年度）
- ・「丹念に読むためには、登場人物の視点に添って場面の展開を追うことが必要」（昭和55年度）
- ・「生徒は答えを出すことに終始して文章全体を理解できない」（昭和60年度）
- ・「文脈を正確にたどれるように指導したい」（平成3年度）
- ・「部分をとらえた短絡的な読みをしがち」（平成4年度）
- ・「登場人物の動作や視点に特に注意を払わせたい」（昭和52年度）
- ・「登場人物の心理について考える習慣を身に付けたい」（昭和52年度）
- ・「登場人物の心理に寄り添って小説の世界に浸る楽しさを味わわせたい」（昭和61年度）
- ・「小説の読解は登場人物の心情把握がポイントになる」（平成5年度）

年度を問わず、文章全体を正確に読むことができない・読解のポイントとなる登場人物の心情を把握する力を付けさせたいというコメントが多かった。

(イ) 分析資料の10年ごとの傾向(任意の10年単位で比較分析を行った)

a 正答率について

昭和52年度、62年度は40～50%台であったのに対し、平成9年度、19年度は70～80%台と高く、より吟味され、適切な出題がなされるようになったのではないと思われる。(昭和42年度は文学的文章に関する出題はなかった)

b 文学的文章の大問ごとの「指導上の留意点」について

昭和52年からは大問ごとに「指導上の留意点」が書かれるようになった。10年ごとに質・量ともに充実し、平成9年度には「実態および問題点」とそれに対する「対応策」が表形式で書かれるようになった。さらに「実態および問題点」とそれに対する「指導における改善の具体策」として問題文を中心に教材化し、授業における板書例・授業で使うワークシートといったより実践的な形式で書かれるようになった。